

新気候体制下のクルーズ観光と観光戦略

- 量から質への転換 -



2023年7月25日 中村学園大学 流通科学部 前嶋 了二

前嶋 了二

まえしま りょうじ



中村学園大学 流通科学部 准教授

観光学概論、観光社会学、観光まちづくり論、
地域活性化論、MICE論、フードツーリズム論 他

Travelife 公認コーチ、審査員



中村学園大学
中村学園大学短期大学部

クルーズに関する実務

- 2008-2011年 長崎県観光振興推進本部
 - ・クルーズ客船誘致戦略と国内外での誘致活動
 - ・長崎県クルーズ振興協議会設立、事務局運営
- 2009-2011年 日韓海峡沿岸広域観光協議会
 - ・日韓海峡クルーズシンポジウム（2008,2009）企画運営
 - ・海外見本市出展（上海・シンガポール）
 - ・海峡圏クルーズ観光資源調査と船社用英語版企画ガイドの製作
- 2008-2012年 全国クルーズ客船誘致連絡会（全客連）
 - ・海外部会長(2010-2012)
- 2011-2018年 JTB九州コミュニケーション事業部
 - ・九州運輸局「海外クルーズ見本市出展事業（上海・シンガポール）」
「世界遺産を活用した広域クルーズルート形成事業」、「同調査事業」、「同誘致事業」
 - ・大分県「ラグジュアリー船・エクスペディション船の誘致およびRWC開催期間中の
ショートクルーズ船誘致に向けた市場調査、並びに先進事例調査事業」
「海外(欧米高級/探検型船社)誘致活動」
- 2018-2019年 佐伯市観光協会業務執行理事 cf.特務として佐伯港へのクルーズ船誘致を兼務
この間、金沢、和歌山、北九州、唐津、熊本、奄美大島などを無償でお手伝い。

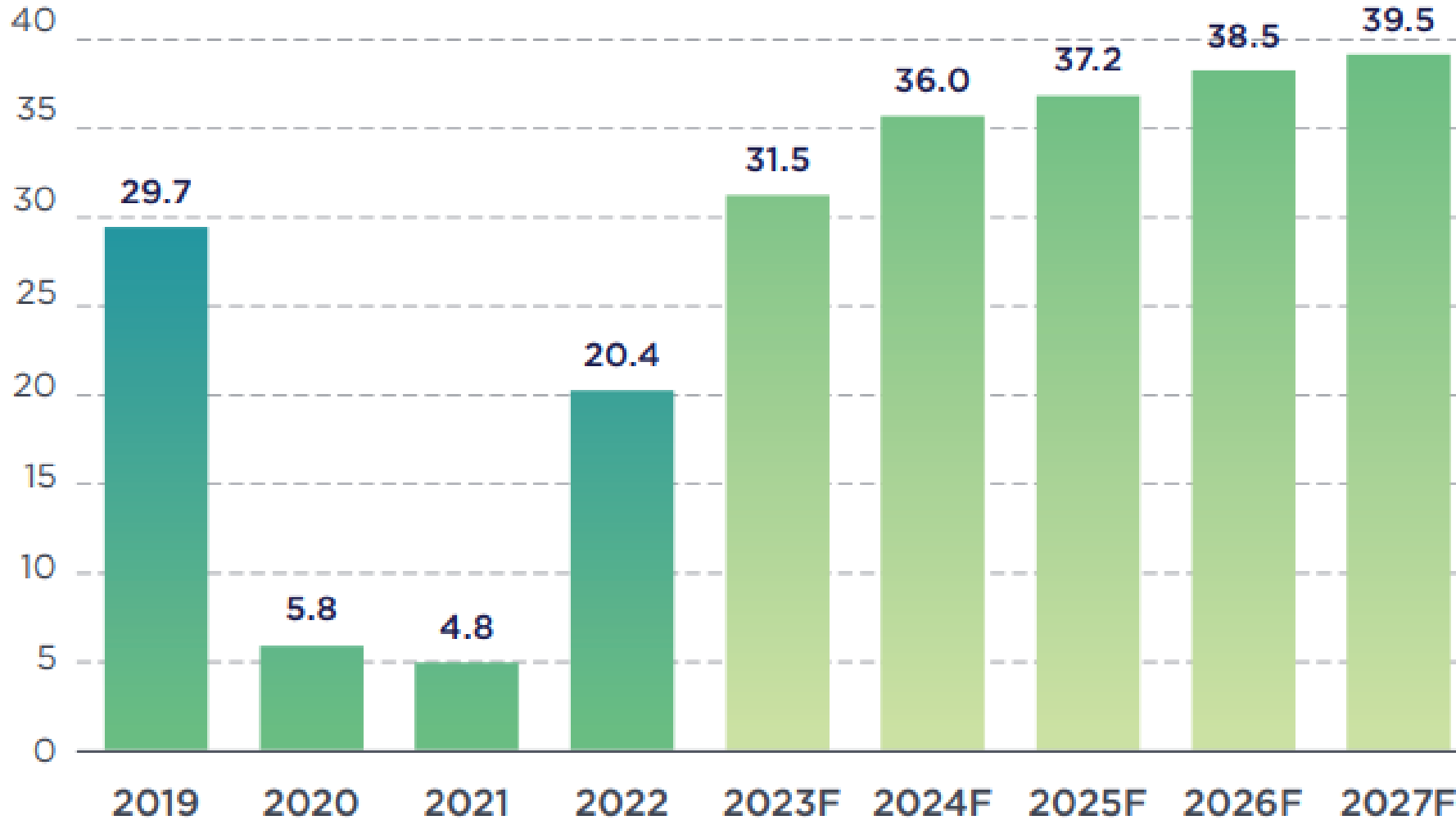
本日のトピック

1. 国際クルーズ市場の動向
2. 新気候体制と高級クルーズ市場
3. 長期的観光政策におけるクルーズ観光の役割 - 量から質へ -
4. 高質のクルーズ客受入と地域に期待される変化

1. 国際クルーズ市場の動向

■ 主要国のクルーズ利用者数の回復状況（2019-2022）

（単位：100万人）



出所：CLIA“STATE OF THE CRUISE INDUSTRY”, [2023-clia-state-of-the-cruise-industry-report_low-res.ashx \(cruising.org\)](https://www.cruising.org/2023-clia-state-of-the-cruise-industry-report_low-res.ashx)
2023年5月、閲覧日2023年7月15日

■ 主要国のクルーズ利用者数の回復状況 (2019-2022)

(単位：千人)

	2019	2020	2021	2022
United States	14,199	2,732 (-80.8% ▼)	2,171 (-20.5% ▼)	11,890 (447.6% ▲)
Germany	2,587	531 (-79.5% ▼)	576 (8.4% ▲)	1,876 (225.8% ▲)
UK & Ireland	1,992	259 (-87.0% ▼)	479 (84.5% ▲)	1,663 (247.5% ▲)
Italy	950	151 (-84.1% ▼)	340 (124.6% ▲)	791 (132.9% ▲)
Canada	1,037	257 (-75.2% ▼)	33 (-87.0% ▼)	567 (1599.3% ▲)
Australia	1,241	312 (-74.9% ▼)	5 (-98.5% ▼)	457 (9375.3% ▲)
Singapore	325	72 (-78.0% ▼)	360 (403.1% ▲)	425 (17.8% ▲)
Spain	553	45 (-91.9% ▼)	74 (65.4% ▲)	414 (458.9% ▲)
France	545	146 (-73.2% ▼)	116 (-20.7% ▼)	325 (180.2% ▲)
Brazil	567	331 (-41.7% ▼)	72 (-78.3% ▼)	284 (295.9% ▲)
India	313	46 (-85.4% ▼)	123 (168.0% ▲)	201 (63.8% ▲)
Mexico	167	18 (-89.2% ▼)	14 (-24.9% ▼)	133 (880.5% ▲)
Netherlands	123	18 (-85.6% ▼)	13 (-26.1% ▼)	82 (529.5% ▲)
South Africa	158	67 (-57.4% ▼)	(-100.0% ▼)	82
Malaysia	121	13 (-88.9% ▼)	25 (83.1% ▲)	74 (202.5% ▲)
Switzerland	140	23 (-83.8% ▼)	20 (-11.5% ▼)	70 (245.7% ▲)
Norway	98	20 (-79.3% ▼)	35 (71.2% ▲)	60 (72.1% ▲)
Austria	136	25 (-81.9% ▼)	15 (-40.2% ▼)	55 (276.4% ▲)
Japan	296	19 (-93.7% ▼)	12 (-37.8% ▼)	42 (263.7% ▲)
Argentina	151	76 (-49.8% ▼)	(-100.0% ▼)	41
New Zealand	106	24 (-77.6% ▼)	(-100.0% ▼)	12
Hong Kong	191	36 (-81.2% ▼)	77 (113.2% ▲)	4 (-94.3% ▼)
Mainland China	1,919	205 (-89.3% ▼)	6 (-97.1% ▼)	(-100.0% ▼)
Taiwan Region	389	83 (-78.8% ▼)	23 (-71.9% ▼)	(-100.0% ▼)

■クルーズ船新造予定 2023-2028 (Cruise Ship Orderbook 2023-2028)

	エクスペディション	ラグジュアリー	プレミアム	カジュアル
1万トン未満	6	2	1	
1～5万t未満	3	13		
5～10万t未満		14〔1=郵船〕		
10～15万t未満		3	3	6
15万t以上			2	16〔3〕

出所：Cruise Industry News “Cruise Ship Orderbook”, (2023.6.12) 閲覧日：2023.7.15 <https://cruiseindustrynews.com/cruise-ship-orderbook/>
〔 〕アジアおよび中国配船

- ・6年間で67隻が発注済み、2023年19隻、2024年31隻が就航予定
- ・好調な高級小型客船、エクスペディション船市場
- ・進む代替エネルギー化（LNG、水素、メタノール、温度差発電、風力、太陽光など）：33隻（49.2%）
- ・世界初の水素エネルギー駆動客船（ノーザンエクスプローラー社 2万トン、220名）
- ・帆船型スーパーラグジュアリー船（オリエントエクスプレス社：3万トン、108名）
- ・メタノール駆動船（TUI；マインシフⅦ 11万トン、2,900名）
- ・購入型洋上マンション船（ストーリーライン：ナラティヴ 62,000トン、1,094名）

2. 新気候体制と高級クルーズ市場

1) 新気候体制における観光産業の責任と危機

■ 産業革命以降、何が起きているのか - 人新世（ヒトシンセイ）と新気候体制

- ・**人新世**: 人類の活動が地質や生態系に明確な影響をもたらしている地質学上の時代
(= **産業革命以降**、ヒトが**化石燃料による経済活動を加速**してきた時代)



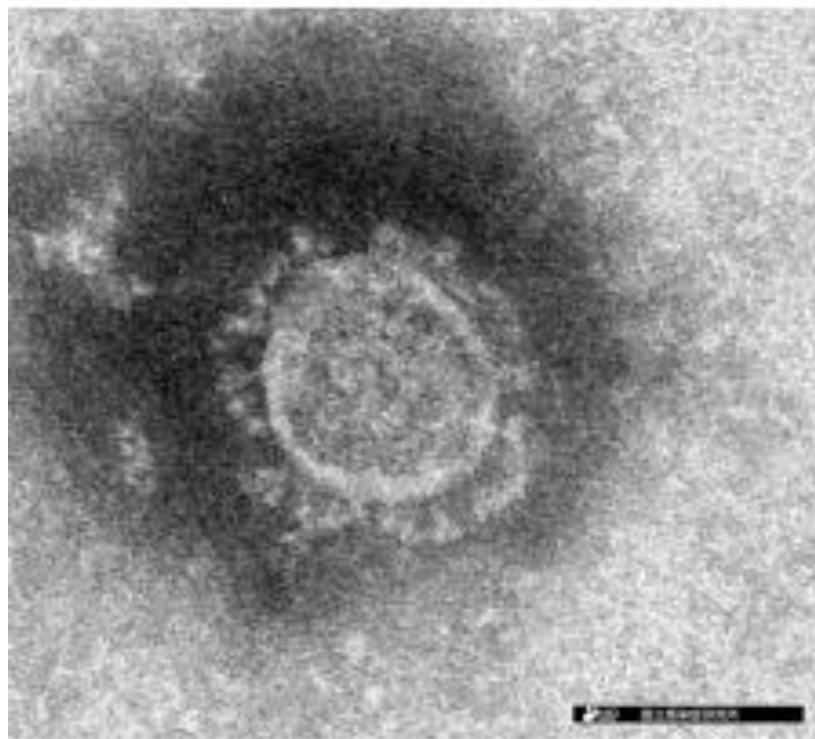
地球温暖化など、全地球規模での環境危機、第6大絶滅期突入との研究結果も

- ・世界気象機関(WMO)の最新報告 (2023.5.23) : 気温上昇は66%の確率で2027年までに1.5度を超える
- ・観光産業の世界GDPシェア : 約10.3% = 約8.9兆ドル (2019) cf. クルーズ産業 約1,500億ドル(2019) by CLIA
WTTC (2020), Global Economic Impact & Trend 2020, 30 June, 2020, p.1
- ・観光産業のGHG排出シェア : 約8% (2013)
M. Lenzen et. al.(2018), The carbon Footprint of global tourism, "Nature Climate Change", 2018.5.7.

■ 観光のネガティブ・インパクト

分類		インパクト
観光 の ネ ガ チ ブ	自然資源の消耗	水、エネルギー、食糧、その他原材料; 鉱物、化石燃料、森林、湿地、野生動物
	汚染	大気汚染、騒音、固形廃棄物、ごみのポイ捨て、汚水、景観美の喪失
	物理的インパクト	観光開発（インフラ・観光施設建設による森林伐採・河川・海岸・海洋等の損耗） 観光客による被害（トレイル上の生物多様性喪失、植生・土壌の損傷）
地球環境へのインパクト		生物多様性の損失、オゾン層の破壊、地球温暖化、気候変動

■ コロナ・パンデミックはなぜ起きた？



- ① 自然と環境に対する人類の危うい接し方
- ② 拡大する格差（先進国・途上国、富裕層・貧困層）
- ③ グローバル経済（人と物資の高速大量輸送）



温暖化(気候変動)、森林破壊、
野生動物生息域と人間の生活域の接近
e.g. エイズ、エボラ出血熱などの拡散

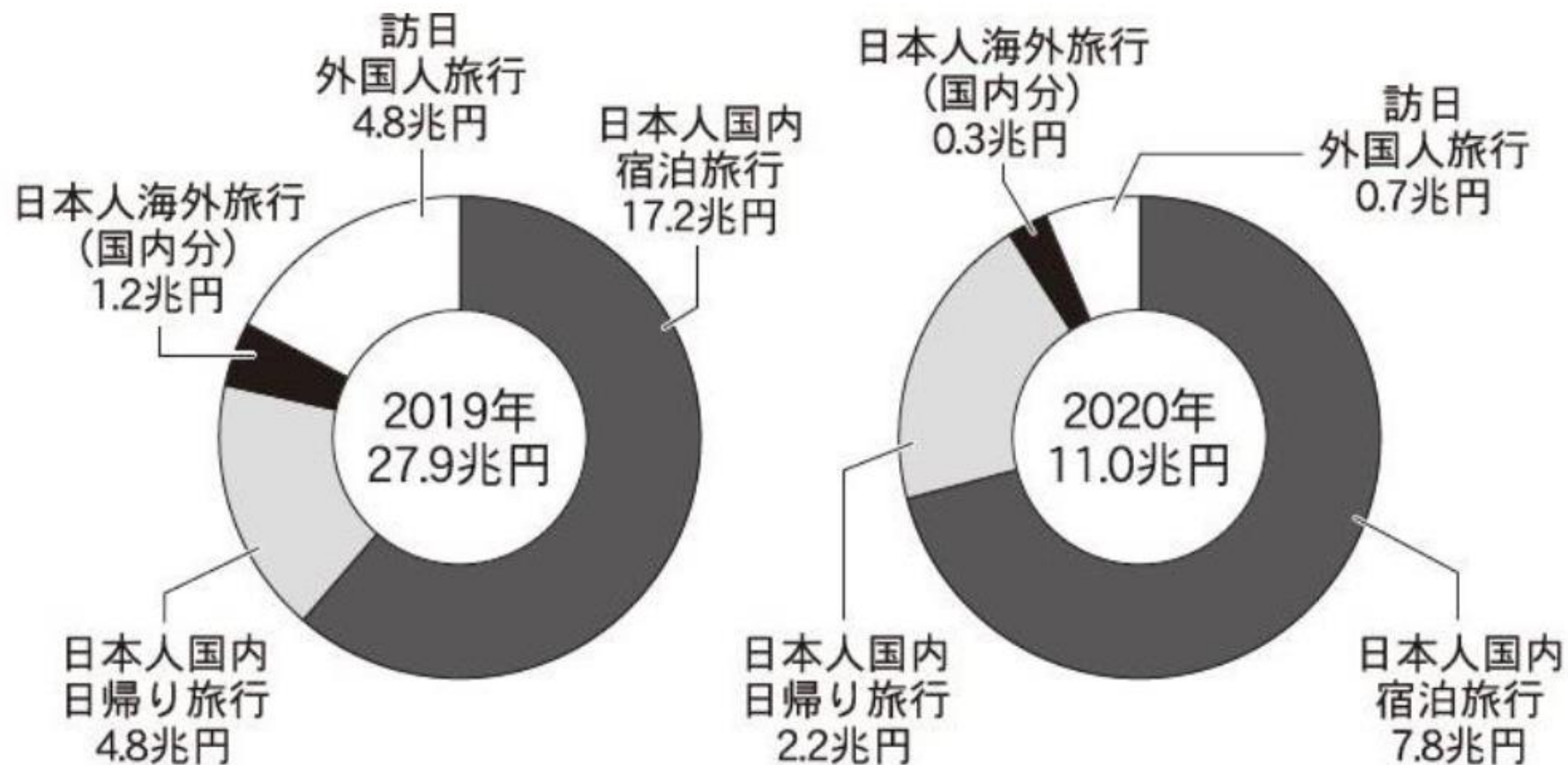


グローバル・リスク

パンデミックの起きやすい環境

e.g. 2002-2003 SARS(重症急性呼吸器症候群)
2012- MERS(中東呼吸器症候群)

■ コロナ禍による日本国内での旅行消費額の変化



出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査」速報値 (2021/4/30)

訪日外国人：4.8兆円 - 0.7兆円 = 4.1兆円 の減少
日本人：23.1兆円 - 10.3兆円 = 12.8兆円 の減少
(特に日本人国内宿泊旅行は、9.4兆円と全減少額の55.6%を占める。)

2) 環境対策が遅れた観光産業分野としてのクルーズ観光

●水質汚染

- ・黒水（トイレ排水）
- ・雑排水
- ・汚水
- ・バラスト排水（バクテリア、域外生物混入）
- ・油流出
- ・ごみ投棄

80,000リットル/日
(3,000名乗り客船)

Environmental Protection Agency

- ・金属
- ・化学物質
- ・高レベル栄養物質

●大気汚染

- ・石油燃料による大気汚染
- ・GHGs, SOx, 発癌性ディーゼルPM2.5
- ・硝酸塩、揮発性有機化合物等



2012/2018年ヴェネチア海上デモ
バルセロナ・アムステルダム観光客課税

●人的汚染(Human Pollution)

- ・観光地/商業地の混雑、交通渋滞、風評被害
- ・ごみ処理費用増加、観光資源摩耗 など



3) 環境問題対策はクルーズ産業の存続に影響する

■ 航空産業の取り組み

- ・2030年にはCO2排出シェアが2%に増加するとの予測
- ・飛び恥(Flying Shame)とは
- ・鉄道との競合短距離航空路線の積極的廃止 (仏)
- ・SAF (持続可能な航空燃料) 義務化のスケジュール化 (EU)

■ 持続可能な観光指標(Sustainable Tourism Indicators)の取り組み拡大

- ・GSTC-Industry Criteria (持続可能な観光指標-ホテル・旅行会社版) の拡大
- ・GSTC-Destination (持続可能な観光指標-観光地版) の拡大 cf. 日本版持続可能な観光ガイドライン(2020年)

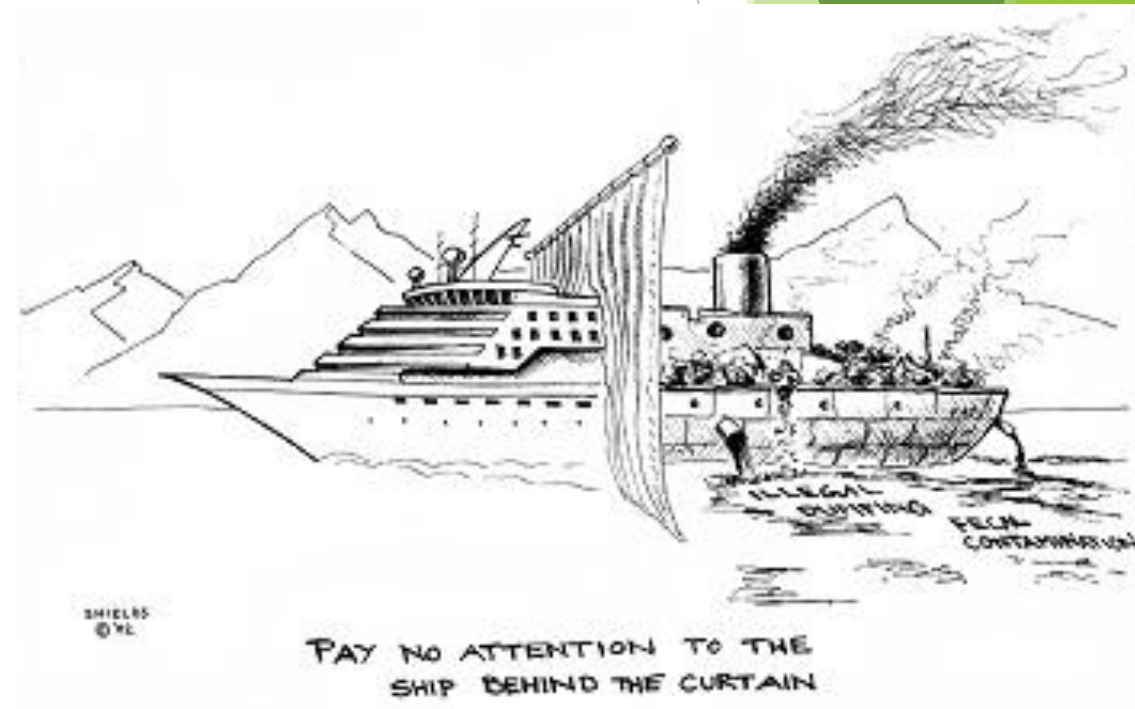
■ CO2排出量可視化の拡大

- ・カーボンフットプリントを明示した旅行商品、比較サイト
- ・カーボンオフセット量を選択可能な旅行商品

■ 船舶運輸産業では

- ・貨物については、IMOで厳しい基準適用を準備
- ・クルーズ産業は対象外のため、「自主規制」「自主努力」

クルーズ産業の環境対策に市場の厳しい眼



3. 長期的観光政策におけるクルーズ観光の役割 - 量から質へ -

1) 増加する小型高級客船と高級エクスペディション船

■クルーズ船新造予定 2023-2028 (Cruise Ship Orderbook 2023-2028)

	エクスペディション	ラグジュアリー	プレミアム	カジュアル
1万トン未満	6	2	1	
1～5万t未満	3	13		
5～10万t未満		14〔1=郵船〕		
10～15万t未満		3	3	6
15万t以上			2	16〔3〕

出所：Cruise Industry News “Cruise Ship Orderbook”, (2023.6.12) 閲覧日：2023.7.15 <https://cruiseindustrynews.com/cruise-ship-orderbook/>
〔 〕アジアおよび中国配船

■ラグジュアリー客船の日本寄港回数の増加 (2018-2019)

年	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	計
2018	7	3	3	5	1	8	19	4	16	6	72
2019	16	10	25	10	8	21	33	5	40	9	177
前年比	228.6%	333.3%	833.3%	200.0%	800.0%	262.5%	173.7%	125.0%	250.0%	150.0%	245.8%

(注) 国交省による分類では、400米ドル/泊以上の客船をラグジュアリー客船として分類している。

出所：国土交通省海事局「2019年の我が国のクルーズ等の動向(調査結果)」

「資料2 2019年の訪日クルーズ旅客数及び我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数について(確報)」に筆者が加筆

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001364317.pdf> (最終閲覧2020年9月26日)

2) 増加している地方港・小規模港への外国客船寄港

- 小型客船(5万トン級まで)新規寄港動向 (2018/2019)-初寄港地の大幅増、前年実績比で318%

客船名 (国・トン数)	2018年1～12月初寄港港数	2019年1～12月初寄港港数
スターレジェンド (米ウインドスター・9,975t)	5 宮古/那覇/宇野/高松/石垣	1・青森
アマデア (独フェニックス・28,856 t)	1 名古屋	
ノーティカ (米オーシャニア・30,277t)	1 横浜	
シルバー・ディスカバラー (米・5,218t)	2 那覇、舞鶴	
チャイニーズ・タイシャン (中・24,427t)	2 舞鶴、境	
シーボーン・ソジャーン (米・32,477t)	1 高松	2・北九州/小樽
カレドニアン・スカイ (英・4,200t)	1 秋田	3・別府/苫小牧/油津
ブレーメン (独ハパクロイド・6,752t)	2 唐津、青方 (上五島)	
シルバー・シャドー (米・28,258t)	1 名古屋	
バイキング・オリオン (瑞・47,842t)	1 那覇	7・鹿児島/長崎/清水/細島/小樽/別府/石垣
インシグニア (米オーシャニア・30,277t)		1・佐渡
アザマラ・クエスト (米ACC・30,277t)		6・函館/金沢/清水/室蘭/釧路/北九州
セブンシーズ・マリナー (米・48,087t)		2・佐渡/鹿児島
シルバー・ミューズ (米・40,791t)		7・鹿児島/唐津/函館/釧路/新潟/清水/細島
オイロパ2 (独ハパクロイド/42,830t)		6・長崎/博多/清水/鳥羽/那覇/石垣
シルバー・エクスプローラー (米・6,130t)		6・金沢/新潟/小木/唐津/能代/青森
マースダム (米・55,575t)		6・釧路/金沢/小樽/函館/那覇/名瀬/
ラ・ラペルーズ (仏・10,000t)		7・石垣/中城/清水/長崎/下関/鹿児島/唐津
計	17	54

3) 小型高級船・エクスペディション船のチャーター運航会社と旅行商品

■ 小型高級客船・エクスペディション船乗客の特徴

- ①. **欧米中心の富裕層・知識層乗客**の知的好奇心、本物志向自体がニーズとなっている。
 - ・高付加価値観光素材(自然・歴史・文化・体験等)への指向性
- ②. **大型客船が入れない海域・港湾**をあえて狙っている。
 - ・瀬戸内海、離島、半島部などの小規模港
- ③. 必ずしも**岸壁や港湾施設を必要としない**。
 - ・ゾディアックボート(写真)、テンドーボートの積極的利用
- ④. **リピーター、シリーズ、日本発着等複数回の入港**が期待できる。
 - ・ポナン(仏)、ノーブルカレドニア(英)、ウインドスター(米)など
- ⑤. 乗客規模が小さいので**交通手段・ガイド等の大量供給が不要**。
 - ・100~400名規模の乗客、専門ガイド/ゲストスピーカーの乗船
- ⑥. 船内エンターテイメントの代わりに**充実した事前学習**を実施。
 - ・学者、写真家などによる専門的デスティネーション解説
- ⑦. **富裕層専門・探検旅行専門旅行エージェントのチャーターが多い**。
 - ・ゼグラム(米)、ナショナル・ジオグラフィック(米)、A&K(米)など
 - ニクルーズ以外の富裕層旅行、探検型旅行へ発展する可能性**



■ 大型客船・小型客船・エクスペディション船のメリットとデメリット比較

	メリット	デメリット
大型船	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点港への経済波及効果：超大 ・ 寄港地への経済波及効果：大 ● 長期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光地知名度向上 ・ 地域活性化機会の創出 ・ 地域の国際化促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模港湾設備投資が必要 ・ 環境汚染（水質・大気） ・ オーバーツーリズム（混雑、ゴミ、風評） ● 長期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光地バリュー、ブランド力低下 ・ 外資への経済メリット流出 ・ 地元関係者のモチベーション低下
エクスペディション <small>小型船</small> 船	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模の設備投資で受入可能 ・ 拠点港 - 前後の観光需要 ・ 環境汚染規模が小さい ・ 受入が容易（港湾・上陸観光） ● 長期 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>大型船観光が不能な地域へ寄港</u> ・ <u>観光資源・文化・環境の再評価</u> ・ <u>観光地バリュー、ブランド力向上</u> ・ <u>地域住民の自信創出</u> ・ 地域の国際化促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接的経済波及効果が小さい (= 行政としてのROIが説明しづらい) ● 長期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接的経済波及効果拡大に時間がかかる ・ 社会的・文化的波及効果の可視化と数値化が困難

エクスペディション・クルーズって？



出所 : [Silversea Cruises HP](#)

■ エクスペディション船の特徴

- ・高学歴、知的好奇心旺盛な富裕層が利用
- ・大型船が入れない海域・港をあえて商品化
- ・岸壁・港湾施設を必要としない
- ・リピーターが多い
- ・船内エンタメの代わりに充実した事前学習とガイド
- ・富裕層/探検旅行専門旅行社のチャーター運航が多い

■ 観光地へのメリット

- ・知名度・観光地としての価値が向上
- ・地域文化・自然・歴史の適切な商品化
- ・観光資源のブラッシュアップ
- ・持続可能な観光に向けた社会的ベクトル
サステイナブルツーリズムの導入
プラスチックの不使用、再生エネルギー利用 等

例)ナショナルジオグラフィック・エクスペディションズ(米)のクルーズ商品



Don George

AUTHOR, EDITOR

2018年に大分県がキーパーソン招へい



Travel writer Don George is an editor-at-large for *National Geographic Traveler* magazine, as well as host of the *National Geographic Live* series of conversations with notable authors. In four decades as a travel writer and editor, Don has visited more than 90 countries on five continents. He has traveled throughout—and written extensively about—Europe and Asia. He has also lived in France, Greece, and Japan, working as a translator in Paris, a teacher in Athens, and a television talk show host in Tokyo. Don is the author of *The Way of Wanderlust: The Best Travel Writing of Don George*, and has received dozens of writing awards, including the Lowell Thomas Travel Journalist of the Year Award.



■ 東シナ海をゆく;日本・沖縄と台湾
2023年9月16-30日 (15日間)
ひとり US\$20,050(≒260万円)~
全寄港地ショアエクスカージョン付き

4. 高質のクルーズ客受入と地域に期待される変化

1) 高級クルーズ客に高い経済波及効果が期待できるか

■ 寄港地関係者からよく聞く悩み「富裕層のはずなのに経済効果が小さい」

Why ?

- ① 乗客が「ほしい」と思う商品がない。或いは「買い物」自体がクルーズ観光の動機ではない。
- ② 高教育・高収入の乗客は、価値のあるものにしか金を使わない。
- ③ 高付加価値の商品はあるが、価値が理解できるまで情報提供できていない。 例) 大島紬
- ④ 価値を理解するまでの時間が提供できていない。

How ?

- ① 価値を理解してもらえよう、日常のプロモーション活動を強化する。
- ② 船内で歴史的価値や文化的価値について事前にじっくりと時間をかけて情報提供する。
- ③ 伝統工芸品などの高付加価値商品に関する体験をツアーに組み込んで理解を図る。
- ④ 乗客のニーズについて、正しい理解が得られるよう、調査を行う。

and

- ① 長期的波及効果について検討する。 - 市場の拡大(他船社の寄港、他の観光商品への波及)
- ② 経済的波及効果以外の効果について検討する。 - 社会的波及効果、教育的波及効果、新しい観光価値の創造

2) クルーズの長期的波及効果 - 市場の拡大(他船社の寄港、他の観光商品への波及)

■ 他船社による寄港への拡大 - 奄美大島の2023年度寄港予定客船の事例

客船	乗客 (乗員)	カテゴリー				EXPD.	備考
		スーパー ラグジュアリー	ラグジュアリー	プレミアム	カジュアル		
セブンシーズエクスプローラー	750(552)	●				●	米リゾート
スターブリーズ	212(124)	●					米ウインドスター
ハンセアティックネイチャー	230(170)	●				●	独、ブティック級No.1
にっぽん丸	408(230)			●			商船三井
飛鳥II	800(470)		●				日本郵船
ヘリテージアドベンチャー	184(125)					●	NZヘリテージイクスペディションクルーズ
ナショナルジオグラフィック レゾリューション	126(112)			●		●	米ナショナルジオグラフィックイクスペディションズ
コーラルアドベンチャー	120(48)			●?		●	豪コーラルイクスペディションズ
ノルウェージャンジュエル	2376(1069)						米ノルウェーアンクルーズ
タリスタルシルバーエンデバー	200(209)	●				●	米シルバーシークルーズ(2023~)
リビエラ	1258(800)			●			米オーシャンアクルーズ
シーボーンソジャーン	450(330)	●				●	米シーボーンクルーズ
クリスタルシンフォニー	848(545)		●				米A&K社(2022~)

・2016年に入港した外国船は、カレドニアン・スカイ（英）のみ

➡ 九州運輸局「世界遺産を活用したクルーズルート開発調査事業/キーパーソン招請事業（2015-16年）」

2016年2月 A&K社副社長の招へい ➡ 同年秋にポナンをチャーターして寄港

・2021年 世界自然遺産登録 ➡ 寄港増加への追い風

■ 他の観光商品への波及 - エクスペディション系旅行会社

例)ゼグラム・エクスペディションズ(米)の日本方面商品



Snow Monkeys & Cranes of Japan
February 9 - February 27, 2016

Marvel at the sight of nearly 12,000 hooded and white-necked cranes, as they flock to Japan's exquisite wintertime landscape, Arasaki, Kyushu—later, a boat trip to the tip of the Shiretoko Peninsula puts us up close and personal with Steller's sea eagles.

- スノーモンキーと日本の鶴
- ・霧島神宮、御池、出水のナベヅル
- ・白川郷、高山
- ・地獄谷(スノーモンキー)
- ・世界遺産・知床半島(オジロワシ)
- ・阿寒国立公園(白鳥)
- ・釧路、養老牛などで北海道の野生動物探索(猛禽類、鹿、キタキツネ、アザラシ、ウニなど多彩)

※飛行機利用



Treasures of Japan
April 30 - May 14, 2016

Sail Japan's Inland Sea, marveling at the fabled shrines, incredible castles, and dramatic coastlines of Honshu Island—as an added bonus, we'll visit Gyeongju, South Korea, a World Heritage Site and ancient capital of the Shilla Dynasty.

- 日本の宝(前出)
- ※エクスペディション型小型客船
「カレドニアン・スカイ」利用



Sacred Traditions: Japan Revealed
October 21 - November 8, 2016

This brand-new Japan adventure introduces you to everything from Honshu Island's local residents to Kyoto's noteworthy temples and Kanazawa's famous gardens of Kenroku-en—it's an off-the-beaten-path immersion with incredible personal connections made possible by Japan expert Mark Brazil.

- 神聖なる伝統; 浮き彫りの日本(後出)
- ※飛行機利用

- ・「クルーズ」はExpedition(探検)の一形態
- ・テーマによっては飛行機を使った周遊型の旅行形態への展開を行っている。(=宿泊を伴う形態)
- ・素材(自然・歴史・環境・文化など)の「価値」が重要

例) ナショナルジオグラフィック・エクスペディションズ(米)の旅行商品展開

NATIONAL GEOGRAPHIC
EXPEDITIONS

Sign Up for Email | Request a Catalog | Reserve online or Call 1-888-966-8687

Where do you want to go? **Find a Trip**

OUR TRIPS | DESTINATIONS | WHY TRAVEL WITH US | RESERVE A TRIP

By Ship | By Train | By Private Jet | Land Journeys | Active Adventures | Photography | Family | Student | Private Expeditions | View All

小型船 | 列車 | 専用機 | 周遊 | 探検 | 写真 | ファミリー | 学生 | プライベート手配

Inside Japan »
12 Days

ADVENTURES
Japan Adventure: Tokyo to Sacred Kumano »
ACTIVITY LEVEL: Moderate
11 Days

NEW
Japan Family Adventure »
10 Days

ADVENTURES
Japan Photo Adventure »
ACTIVITY LEVEL: Moderate
11 Days

Japan Photo Expedition »
12 Days

NEW
Winter in Japan »
12 Days

NEW
Winter in Japan Photo Expedition »
12 Days

- クルーズ以外の多彩な商品へ展開の可能性
- ビデオ、書籍などによる情報普及

3) 経済的波及効果以外の効果 - 社会的波及効果、教育的波及効果、新しい観光価値の創造



アメリカの国際クルーズ船が唐津港へ
お目当てはサイクリング

今年2回目の国際船寄港



スター・ブリーズ号

アメリカ人・カナダ人など乗せ 今月16日に東京出発
高知 博多 釜山など9カ所の港を巡る

- ・スターブリーズ(米ウイントスター社、スーパーラグジュアリー級)：212名乗り（乗員124人）
- ・自転車での観光 = ゼロ・エミッション



ご清聴ありがとうございました。

ご自分たちの地域に合った
地域経営と観光戦略の中で
正しいクルーズを選択しましょう。

中村学園大学 前嶋 了二
r.maeshima@nakamura-u.ac.jp